

令和元年度第1回千葉県博物館協議会会議 議事録要旨

日 時：令和元年7月19日（金） 午後2時から4時

会 場：千葉県立関宿城博物館 集会室

出席者：委員 岡本委員（議長）、西田委員（副議長）、小野委員、浅岡委員、
細井委員、齊藤委員、高橋委員、米本委員

博物館 鈴木関宿城博物館長、望月中央博物館長、福田美術館副館長、
矢島現代産業科学館長、藤田房総のむら館長

文化財課 植野学芸振興室長、黒沢副主幹

1 開会 （傍聴人なし）

2 館長挨拶 （千葉県立関宿城博物館 鈴木館長による）

3 協議

関宿城博物館「観光資源と博物館～地域の観光資源との連携～」

議 長：今回は、関宿城博物館の取り組みについて協議します。では、協議テーマについて説明してください。

＜関宿城博物館より配布資料及び概要について説明＞

議 長：関宿城博物館のいくつかの観光に関する取り組みの説明があったが、各委員から意見をお願いしたい。

委 員：観光というテーマは時代を捉えている。教育的な側面や資料の保存等の業務と並行してこういう努力をされているというのは随分進んできたという印象。観光というと人や歴史に目が行きがちだが、天地と水が交わる場所、自然と人と産物がここの資源となっている。関東平野の真ん中のゆったりした自然そのものが財産である。まずはその資源をアピールするキーワード、キャッチコピーが必要。

委 員：今回、初めての参加で、市原から電車で来てみたが、感想としては遠いなあと実感した。関宿という地名も他の地域と比較するとポピュラーではない。しかし、ここは独特の地形が魅力である。その良さをどうやって発信できるかが課題である。最近のインスタ映えなども重要視すべきだろう。

委 員：私も初めての来館だが、お城の写真を見ただけで、外国人などには興味

を持たれるのではないか。ただ、実際にお城が建っていて栄えた時代の様子がもう少し伝わると良い。現代社会では辺境・境界というのは良いイメージがないが、それを覆すような凄かった部分の展示があると地元の子供達も元気になる。そういうところに生まれ育ち、自分達につながっているという誇りにつながる展示があるとよい。

委員：この場所は遠いが、こうやっていけば行ける、ということが具体的にわかるようなパンフレットの表記を工夫してはどうか。例えば実際のバスの時刻表などが書いてあって、これに乗ってこういうふうに来ればというコースなども示すと、心理的な距離は縮まるのではないか。リーフレットも公民館などにただ置くのではなく、公民館館長会議などに出向いてアピールすると、口コミが広がるきっかけになるのではないか。

委員：8年前に比べると、展示が大変面白くなった。お城も立地も素敵のところだが、以前は水害の展示ばかりで暗かったが、今は良くなった。場所自体は大変魅力がある。ただ1点だけ困るのは、東葛方面から団体客、特に子供達が大型バスなどで来た時に、トイレ休憩をするところがないのが問題。16号線が渋滞すると動かないので2時間半もかかると考えると連れてきづらい。16号に道の駅ができる予定とのことなので、それができればかなり良い。

委員：この場所がどこにあるのか、分かりにくいのは間違いない。この館の展示は水がテーマだが、もう少し関東平野全体を広く取り上げた展示を考えてもよいのではないか。「ここにすれば、関東のすべてが分かる」というようなPRをしてはどうか。お城の博物館という石下、かすみがうら市、大多喜城の博物館や本物の江戸城や熱海の城なども含めて、関宿がどこにあるのか、子供達に理解させる、そういう部分を活かした博物館づくりができないか。

また外国人に対して英文解説はあるが、例えば映像でこの町や城を紹介する手段も考えてよいのではないか。

もう一点、このリバーサイドに将来ホテルなどもできるかもしれない。ウクライナのキエフも川辺があって古城がある立地でリゾート地となっている。ここも一つのリゾート地として、行政などに対してもこれまでにないイメージを発信してはどうか。また、この地にゆかりの音楽家のコンサートを開くなど、人材も含めて観光資源ということを考えてはどうか。

委員：はとバスツアーが大分効果が大きかったようだが、これは館が企画したものか、それともバス会社から来た企画なのか。

関宿城博物館：先方から話があったものである。

委員：了解した。これがまた続くと良い。はとバスツアーは秋・冬だったようだが、夏場も人を呼ぶ工夫はできないだろうか。カヤックなどの川遊びのイベントなどで知名度をあげられないか。

関宿城博物館：去年はやっていないが、以前やっていたことはある。

委員：了解した。ドローンの映像は、自分で360度回せるようになっていて面白い。また、写真はインパクトがあるので、インスタグラムなども利用してフォロワーが増えるとよい。
また、銚子からここまで、川をテーマにつながりのある博物館はないのか。連携はできないか。

関宿城博物館：県立の中央博物館大利根分館のほか、埼玉の川の博物館などがある。また群馬県博などとは資料の貸し借りなどはある。

委員：年齢層はどの辺りの層なのか。

関宿城博物館：65歳以上の方が多い。

委員：そうすると展示はそこに合わせていったほうがよいのか、新たな層を開拓するのか。

関宿城博物館：今の展示は継続していくつもりであるが、現在開催しているすごろクイズなどは子供向けである。

委員：この地域は防災の意識も高いようだが。

関宿城博物館：この地域は、河川改修工事以前は、逆に船仕事で稼いでいた地域。水塚など自然と水への防災意識も高かった。明治以降は、防災の面では進んだが、水運は廃れた。

委員：関宿城については城跡だけだと集客には弱い。しかし、利根川を付け替えた、すごい大工事を景観として見られるのはここだけ。やはり水運と河川のダイナミックな掘削工事という点をお城の付加価値として考えるとよい。関宿が野田市に合併した時に、野田市はこの地域をどのように捉えていたのか。

関宿城博物館：野田は醸造を中心としたストーリー、関宿については城下町を中心としたストーリー性を考えてそれを理解するようなツールを作っていければ、来館者により深く訴えられるのではないか。

委員：野田というと醤油だが、それに対抗とするというか、それも含めたより

広域のネットワークを考えていただけたら、と思う。

委員：地域の方ともよく集まりを持たれているようだが、それとは別に、より広い関東地域の博物館が中心となった「関東平野のへそ」シンポジウムのようなものを開いてはどうか。人文を含めた科学を扱う博物館どうしなどで集まり、そういう学術的な企画を開くのも面白いのではないかと思う。

議長：そのほかに議事として、取り上げたいことはございますか。

無いようでしたら、文化財課より、県立博物館評価事業について御説明をお願いします。

<植野学芸振興室長より評価制度の概要及び平成30年度の内容説明>

植野室長：HPでは平成25年度からの分が掲載されているので、見て頂けたらと思います。

議長：ほかに議事は無いようですので終了し、事務局へ進行をお返しします。

4 閉会